

I. 平成 21 年度事業報告

I. 総会・表彰式

(1) 第 62 回通常総会

平成 21 年 3 月 28 日 (土) 13 時 40 分から日本大学理工学部船橋キャンパスにて開催。社員総数 360 名のうち、288 名 (内 35 名、委任状 253 名) が出席し、社員の過半数である定足数を満たし、次の事項について議決した。

- 1) 平成 20 年度事業報告承認の件、2) 平成 20 年度収支決算および年度末貸借対照表ならびに財産目録承認の件、3) 平成 20 年度表彰者選定結果の報告、4) 公益法人制度への今後の対応方針承認の件。

すべての案件につき、全会一致で承認された。

(2) 臨時総会

平成 22 年 2 月 25 日 (木) 13 時 30 分から本会 7 階ホールにて開催。社員 360 名のうち、268 名 (内 42 名、委任状 226 名) が出席し、社員の過半数である定足数を満たし、次の事項について議決した。

- 1) 平成 22 年度事業計画案承認の件、2) 平成 22 年度収支予算案承認の件、3) 平成 22 年度役員承認の件、4) 名誉会員推戴者承認の件、5) 平成 21 年度表彰者選定結果報告の件。
- すべての案件につき、賛成過半数で承認された。

(3) 表彰式・名誉会員推戴式

平成 21 年 3 月 28 日 (土) の第 62 回通常総会に引き続いて行なった。

【表彰者】

1) 第 61 回 日本化学会賞

相田 卓三 川合 眞紀 神原 秀記 北川 進
鈴木 啓介 濱口 宏夫

2) 第 26 回 学術賞

大塚 浩二 河野 正規 近藤 輝幸 田中健一郎
寺田 眞浩 中嶋 敦 鍋島 達弥 前田 瑞夫
真島 和志

3) 第 58 回 進歩賞

石内 俊一 Ajayan Vinu 大木 靖弘 山東 信介
重田 育照 前田 大光 山口 和也 山下 誠
依光 英樹 若宮 淳志

4) 第 57 回 化学技術賞

①山松 節男 山口 辰男 青島 淳 丁野 昌純

永野 修

②海上 暁 井上 一吉 大山 正嗣

③新庄 博文 長井 康貴 田辺 稔貴 三宅 慶治

坂神 新吾

④原田浩一郎 山田 啓司 藤田 弘輝 對尾 良則

高見 明秀

5) 第 14 回 技術進歩賞

①小林 道元 石井健太郎 川上 和美

②中塚 史朗 磯川 素朗 中井 一宙

6) 第 33 回 化学教育賞

伊佐 公男 渡辺 正

7) 第 26 回 化学教育有功賞

足利 裕人 杉山 正明 鈴木 哲 高梨 賢英
山本 孝二

8) 第 27 回 化学技術有功賞

①安達 清治

②鈴木 仁志 三浦 和浩 嶺岸 宏

③水谷 文保

9) 第 4 回 功労賞

富永 健

10) 特別功労賞

中島 哲

【名誉会員推戴者】

飯島 澄男 下村 脩 諸熊 奎治

Gabor A. Somorjai

【日本化学会フェロー】

蟻川 芳子 石井 康敬 石丸 信吾 伊藤 翼
井上 伸昭 今中 忠行 植村 榮 内海晋一郎
太田 博道 大坪 徹夫 大寺 純蔵 岡田 茜
岡田 至 長田 義仁 角五 正弘 岸本 泰志
楠本 正一 國友哲之輔 倉内 紀雄 栗原 優
月向 邦彦 鴻池 敏郎 小林 稔明 佐々木陽一
杉浦 正治 田島 慶三 辻井 薫 寺本 和雄
寺本 武郎 富岡 秀雄 中西 八郎 中野 博夫
新田 一誠 二瓶 好正 原口 紘丞 原田 宣之
平尾 公彦 平野 茂夫 府川伊三郎 保坂 宏和
前田 修一 真木 隆夫 松崎 徳雄 南 努
宮下 正昭 森川 忠則 山添 昇 吉田 淑則
吉村 典昭 渡邊 英一 渡部 徳子

II. 法定理事変更および登記手続

平成 21 年度理事として

中西 宏幸 (三井化学株)

池上 眞平 (富士フィルム株)

大寫幸一郎 (京大副学長)

上村 大輔 (慶応大理工) 澤田 嗣郎 (JST)

大倉 一郎 (東工大副学長) 山岸 隆 (帝人株)

赤阪 健 (筑波大先端研) 青山 安宏 (京大院工)

小島 秀子 (愛媛大院理工) 石黒 慎一 (九大院理)

佐々木万治 (住友化学株) 金子 克美 (千葉大院理)

茶谷 直人 (阪大院工) 小池 康博 (慶應大理工)

辻 尚志 (味の素株) 三戸 邦郎 (三井化学株)

時任 宣博 (京大化研) 下井 守 (東大院総合文化)

西山 久雄 (名大院工) 錦谷 禎範 (新日本石油株)

廣川 健 (広島大院工) 平間 正博 (東北大院理)

増田 隆夫 (北大院工) 若林 文高 (国立科学博物館)

和田 雄二 (東工大院理工) 太田 暉人 (日本化学会)

の 27 氏が就任し、その手続きは平成 21 年 4 月 9 日に完了した。

III. 平成 22 年度役員候補者

平成 22 年度役員候補者は所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り承認された。

会長 岩澤 康裕 (電通大電気通信)

副会長 竜田 邦明 (早大理工)

池上 眞平 (富士フィルム株)*

千葉 泰久 (宇部興産株) 上村 大輔 (慶応大理工)*

平尾 俊一 (阪大院工)

大倉 一郎 (東工大副学長)*

理事 阿部 正彦 (東理大理工)

赤阪 健 (筑波大先端研)*

新井 和孝 (日産化学工業株)

小島 秀子 (愛媛大院理工)*

稲永 純二 (九大先端研) 佐々木万治 (住友化学株)*

岡畑 恵雄 (東工大生命理工)

茶谷 直人 (阪大院工)* 加藤 隆史 (東大院工)

辻 尚志 (味の素株)*

多田 啓司 (旭化成ケミカルズ株)

時任 宣博 (京大化研)* 西久保忠臣 (神奈川大工)

西山 久雄 (名大院工)* 宮下 徳治 (東北大多元研)

廣川 健 (広島大院工)* 増田 隆夫 (北大院工)*

若林 文高 (国立科学博物館)*

和田 雄二 (東工大院理工)*

常務理事 川島 信之 (三井化学株・日本化学会)

*：平成 21 年度に選任された留任役員である。

新海 征治 早川 芳宏 福井 寛 福嶋 喜章
 正本 順三 増原 宏 松本 伸一

IV. 平成 21 年度表彰者

平成 21 年度表彰者は、所定の手続きを経て下記のとおり決定し、臨時総会で報告した。

- 1) 第 62 回 日本化学会賞
 碓屋 隆雄 池田 富樹 魚崎 浩平 大須賀篤弘
 篠原 久典 春田 正毅
- 2) 第 27 回 学術賞
 秋山 隆彦 今中 信人 及川 英俊 北川 宏
 佃 達哉 林 高史 村越 敬 山子 茂
- 3) 第 59 回 進歩賞
 植村 卓史 加納 太一 川崎 常臣 笹森 貴裕
 鳶巢 守 中西 尚志 不破 春彦 山本 洋平
- 4) 第 58 回 化学技術賞
 ①松木 安生 西川 通則 河村 繁生 山本 圭一
 六鹿 泰顕
 ②氏原 一哉 松尾 憲忠 森 達哉 庄野 美徳
 岩崎 智則
 ③富川真佐夫 弓場 智之 吉田 智之 諏訪 充史
 鈴江 茂
 ④倉 久稔 國本 和彦 田辺 潤一 大和 真樹
- 5) 第 34 回 化学教育賞
 江口 太郎 松原 静郎
- 6) 第 27 回 化学教育有功賞
 岩田 久道 高橋 匡之 田中 芳和 福田 俊彦
 藤岡 和男
- 7) 第 28 回 化学技術有功賞
 重実 正博

V. 名誉会員候補者

名誉会員推戴候補者は、所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り決定した。

竜田 邦明 SEEBACH, Dieter

VI. 日本化学会フェロー

日本化学会フェロー候補者は、所定の手続きを経て下記の通り決定した。

植村 忠廣 大野 公一 佐藤 忠久 眞田 信一

VIII. 平成 21 年度理事会、各部門の審議経過

(1) 理事会

今年度理事会は、第 593 回～第 597 回の計 5 回開催した。

1. 財政緊急対策

厳しさが増す経済環境のもと財政逼迫に対応し平成 21 年度予算をキープするために、支出を 4 千万円削減する緊急対策案を第 594 回理事会で決定した。人件費、委員会費、事務費、支部費・部会費に関する削減案を実行した結果、期首の 12 百万円の赤字予算に対し予測値として約 5 百万円の赤字まで収支改善し、その決算予測を第 596 回理事会で報告した。

2. 日本化学会のあり方

内外環境の急速な変化に伴い、日本化学会のあり方の検討を行った。会長、次期会長を中心とするあり方委員会で立案し理事会に諮り、それぞれ機関決定した。

【日本化学会の使命とあるべき姿：第 595 回理事会、中長期基本戦略：第 595 回理事会、組織体制と移行スケジュール：第 596 回理事会】

平成 22 年 3 月からの組織変更（7 委員会廃止）に関連する内規改訂案を第 597 回理事会で承認した。

3. 公益法人認定に向けた新定款の策定

内閣府のモデル定款をベースとして会務部門会議と事務局で討議し、新定款案を作成し、現行定款との比較を明確にした。第 596 回理事会において、次回理事会に付議し、4 月の通常総会での機関決定を経て、7 月を目途に認定申請を行うことを承認した。

4. 各賞選考、名誉会員推戴、フェロー選考、平成 22 年度役員人事については、規則に従って、第 596 回理事会で承認された。

5. 平成 21 年度決算予測で期首予算に比べて収支改善したこと、平成 22 年度予算案は収支を均衡させたが規模が縮小していることについて第 596 回理事会で報告があった。

6. 国際交流関連

①中国との国際協力協定：3 月 29 日締結した覚書の内容に従って、両国若手化学者による“China-Japan Young Chemists Forum”を企画し、概要を第 596 回理事会で報告した。岩澤次期会長が招待されている 6 月の中国化学会年会で実施される。

VII. 平成 21 年度理事会・委員会開催回数

通常総会	1 回	研究交流部門	
臨時総会	1	研究交流部門会議	0
役員会等		学術研究活性化委員会	4
理事会	5	ディビジョン運営委員会	2
顧問会	1	国際交流委員会	1
相談役会	1	第 90 春季年会（2010）実行委員会	3
支部長・部会長会	3	男女共同参画推進委員会	3
運営会議関係		化学遺産委員会	5
運営会議	6	学術情報部門	
将来構想委員会	4	学術情報部門会議	1
広報委員会	1	化工誌編集委員会（幹事会 11 回含む）	13
倫理委員会	3	欧文誌編集委員会（編集幹事会 12 回含む）	14
論説委員会	2	速報誌編集委員会	3
会務部門		産学交流・人材育成部門	
会務部門会議	5	産学交流委員会	3
会員委員会	3	博士セミナー実行委員会	5
財務委員会	3	化学技術者教育委員会	2
職員人事委員会	0	化学教育協議会	
役員選考委員会	1	化教誌編集委員会（幹事会 6 回含む）	9
学会賞選考委員会	2	役員会（幹事会 4 回含む）	5
学術賞・進歩賞選考委員会	1	化学グランプリ・オリンピック委員会	4
化学技術賞等選考委員会	1	環境・安全推進委員会（幹事会 1 回含む）	2
化学教育賞等選考委員会	1	化学関係学協会連合協議会	0
フェロー選考委員会	1		

- ② ACC (アジア化学会議) 招致: 2013年のACCを札幌に誘致することはできなかった。第595回理事会で、アジアでの活動を継続し、日本化学会のプレゼンス向上を図る取り組みを行うことを確認した。
- ③ PACIFICHEM 2010 参加登録費: PACIFICHEM 組織委員会との審議により625USDを理事会で承認した。
- ④ IUPAC: IUPAC 賛助会員委員会の預かり金の取り扱い、役割・責任を明確にするために内規改訂の提案があり、第595回理事会で承認した。

7. その他

- ① 通常総会の日程: 平成22年度は、通常総会を春季年会中ではなく、4月に開催することを、第594回理事会で承認した。
- ② 年会: 参加者の利便性向上のため、プログラムの分冊化と講演予稿集の4分冊化を第595回理事会で承認した。
- ③ 世界化学年: 化学連合での討議内容が、第595回理事会で報告された。その後、討議を重ね化学会としての方針をとりまとめて第597回理事会で報告した。

1) 将来構想委員会

今年度委員会は4回開催した。

- 1. 日本化学会の将来ビジョン(グランドデザイン)の検討
日本化学会の使命、存在意義や担うべき役割について議論した。その結果を「あり方委員会」に伝え、日本化学会の使命とあるべき姿が纏められた。その後、それが理事会で承認された。
- 2. 大学院の教育研究費実態調査に関する提言の作成
昨年行った調査の不足部分についての追加調査をWG(渡辺芳人主査)で行った。大学教員に配分される教育研究費が少ないことなど具体的なデータに基づき、①基盤的経費の底上げ、②科学研究費補助金の採択率向上、③RA経費による大学院生支援の拡充、④教育研究用設備と装置維持のための予算の増額、⑤地方における若手研究者のスタートアップ経費支援、⑥大学院生、PD、若手教員の海外派遣支援の6項目を纏めた。これに基づき、提言案を作成中。
- 3. 部会・ディビジョンの本会における位置づけ
部会、ディビジョンの関係を明確にし、活動を活性化するために、学術活性化委員会に検討を依頼した。
- 4. 化学レポート・ディビジョンレポートの広報
レポートを有効活用するために、広報をすべきという意見は多いが、具体的検討には至らなかった。
- 5. 『2011世界化学年』の取り組みについて
化学連合からの報告を受けて(8/24)、化学会の役割や責任を明確に出来る組織体制について検討した。
- 6. 会員増強と制度の改革
会員増強の対策については、会員委員会で検討し、事務局会員Gで実行に移すよう依頼した。本件は迅速な対応が必要であり、集中審議で提案し、すみやかに実行に移すよう強く要請している。
- 7. 二国間協定を中国以外に対象を拡げることの是非(日韓、日シンガポール、日印など)
アジアの化学会における日本の存在感が薄いという認識の下に、今後のアジアでの活動について、二国間協定の対象を中国以外に拡げることの是非を含めて、意見交換を行い、アジアでの活動を継続し、日本化学会のプレゼンス向上を図る取り組みを行うことを確認した。
- 8. 年会のあり方と活性化策(ディビジョン、部会、関連他学協会の連携など)
年会のあり方について、収益源となるイベント(秋季)を含めて、WTを設けて検討する予定。若手の委員を、会長、副会長より推薦頂き、発足する予定。

2) 広報委員会

平成21年度の広報委員会は1回開催し、下記事業を中心に行った。
化学イノベーションシンポジウム:明日を拓く化学のとびら(第7回)
平成16年1月より本部事業として開始された標記シンポジウムの第7回目は本会北海道支部関係者の全面的な協力を得、また、平成21年度科研費成果公開促進費の補助をうけ、開催し、約200名を超える参加者を得た。
○日 時:平成21年8月8日(土)13時~17時
○会 場:共済ホール(札幌市)

3) 倫理委員会

今年度は3回の委員会を開催した。
シンポジウムの報告・企画のほか、倫理教育検討小委員会の今後の活動について、技術者倫理協議会への参加報告等のほか、申し立てのあった2件の審理を行なった。2件のうち1件については、除名処分を理事会に答申した。
第89春季年会(日大船橋キャンパス)で開催のシンポジウム「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える(5)」には多数が参加、好評を博した。倫理教育検討小委員会は今後事例集作成に焦点を絞って活動することとなった。

4) 論説委員会

当委員会は日本化学会が専門家集団としてより社会にむけて積極的に発言するため、化学、化学技術関連の時事テーマを随時とりあげ、それに対する見解を機関誌、HPなどに「論説」として掲載している。またその論説に対する読者からの意見をも掲載し、問題に対する会員および一般社会の理解を求め、適切な共通認識に至ることを目指している。
21年度は、論説委員12名とテーマにより委嘱されるゲスト論説委員が順次執筆し、「化学と工業」およびHPに掲載して会員のみだけでなく社会に向けて発信を行った。21年1月号からは英文翻訳版を併せて掲載した。

(2) 会務部門

今年度、部門会議は5回開催したほか、部門傘下の各委員会の活動概況を以下にまとめた。

1) 会務部門会議

- 1. 平成20年度各賞選考委員会よりの申送り事項および21年度の方針
各賞選考委員会において出された意見および21年度の方針を基に、学会賞推薦用紙の一部改定、化学技術賞等及び化学教育賞等の受賞候補者選出投票方法の改定、化学技術有功賞の授賞対象について討議し、運営会議・理事会に提案した。
- 2. 日本化学会フェロー候補者選考方針について
平成21年度は、候補者を規程に則って会員やフェローから、また本会の各委員会から推薦してもらうことにした。
- 3. 公益社団法人の認定申請のための定款変更案の審議・作成
第2回から第5回までの会務部門会議及び小委員会(新定款案審議検討会議を1回)において、公益社団法人移行認定に向けての定款変更案を審議し、運営会議並びに理事会に提出した。新定款案作成にあたっての主なポイントは次の通り。
①法人法と認定法に定められた条件を確実にクリアにする
②記載を最小限にとどめ、運営上の自由度を最大限にする
③内閣府のモデル定款を尊重する
④公益認定等委員会窓口相談員の意見を聞きながら、最終案を作成する

2) 会員委員会

今年度は委員会を3回開催した。
会員へのサービス向上を図る会員増強につなげる観点から、クレジット決済の検討、会費一括納付制度の検討、新会員管

理システムの有効利用、新入会の個人正会員・学生会員への記念品贈呈、会員紹介ポイント制度、寄付用紙の改訂などを実施した。

代表正会員会議を3月27日(金)に第89春季年会会場(日大・船橋キャンパス)にて開催した。議題は平成21年度運営方針、日本化学会の現状報告、会員増強依頼、代表正会員に関する申し合わせなど。

3) 財務委員会

今年度委員会は3回開催した。

1. 平成20年度決算概要

平成20年9月のリーマンショックに端を発した世界経済不況に直面し、下記決算表に示すように、平成20年度の日本化学会の決算は実質赤字となった。

事業活動では△39,867,176円のマイナスを計上した。投資活動を含めた合計収支は56,726,921円の黒字であったが、これは化学振興事業基金の取り崩し及び国債の勘定費目の固定資産への変更等が計上された結果である。

前期繰越金の88,088,427円は、期末の次期繰越金として31,361,506円に減少した。貸借対照表に示された一般正味財産の金額は1,199,287,078円(化学振興事業基金の残高は172,524,106円)となり、正味財産は35,305,978円減少した。

平成20年度の決算

	収入計	支出計	収支
事業活動	867,063,522	906,930,698	△39,867,176
投資活動	155,893,307	56,211,496	99,681,811
財務活動	0	3,087,714	△3,087,714
合計	1,022,956,829	966,229,908	56,726,921

2. 平成21年度予算の策定と承認

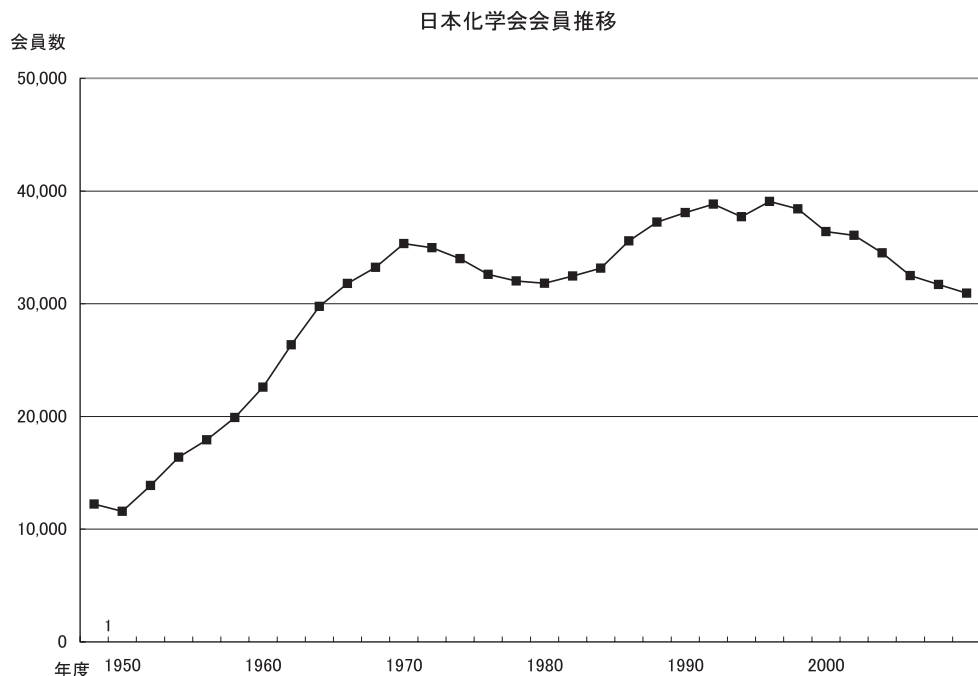
引き続き厳しい経済環境が続くと予想されることから、平成21年度の期首予算は、収入総額949,019,000円、支出総額960,958,000円とし、△11,939,000円の赤字予算を策定し、化学振興事業基金から10,439,000円を取り崩すこととした。本予算案は平成21年3月開催の臨時総会にて承認された。

3. 緊急対策への予算対応

会員現況 [年間]

会員種別	平成21年 2月末	平成21年度中								平成22年 2月末	年度内 増減
		入会内訳			退会内訳				変更 修正		
		新入会	復帰	入会計	退会	死亡	除籍	退会計			
個人正会員	23,248	403	10	413	1,701	91	1,248	3,040	1,949	22,570	-678
学生会員	5,388	2,697	5	2,702	676	2	67	745	-1,960	5,385	-3
教育会員	1,929	116	0	116	108	4	33	145	8	1,908	-21
名誉会員	80	1	0	1	0	2	0	2	3	82	2
法人正会員	545	0	0	0	46	0	2	48	0	497	-48
公共会員	522	2	0	2	23	0	1	24	0	500	-22
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	31,712	3,219	15	3,234	2,554	99	1,351	4,004	0	30,942	-770

年度	合計
1950	12,233
	11,585
	13,876
	16,388
	17,931
	19,901
1960	22,596
	26,354
	29,764
	31,806
	33,223
1970	35,329
	34,972
	33,999
	32,611
	32,018
1980	31,810
	32,456
	33,165
	35,572
	37,247
1990	38,080
	38,831
	37,722
	39,084
	38,419
2000	36,406
	36,062
	34,514
	32,496
	31,712
2009	30,942



臨時総会にて承認された平成 21 年度期首予算の執行が開始された 4 月以降も厳しい経済環境が続く、日本化学会の財務環境においても、会員数の減少、企業から広告掲載料の減少、各種事業参加費収入の減少等が続いたことから、平成 21 年 5 月の運営会議で「日本化学会のあり方」検討において、中長期戦略策定を含む緊急対策に関する基本方針が決定された。これを受け、第一回財務委員会において、以下の 3 点を骨子とする 40 百万円の執行予算追加削減策が提案され承認された。

- ①基本支部費、化学普及費等 6 百万円削減
- ②委員会活動の開催回数や事業内容の見直しによる支出削減
- ③職員数削減を含めた人件費の削減

その結果、10 月末決算予測では、当初予算△11,939,000 円の収支差額が△4,819,000 円まで改善された。

	収入計	支出計	収支
平成 21 年度当初予算	949,019,000	960,958,000	△ 11,939,000
決算予測 (平成 21 年 10 月末時点)	865,303,000	870,122,000	△ 4,819,000
差異	△ 83,716,000	△ 90,836,000	

4. 平成 22 年度予算案

平成 22 年度予算編成に当たっては、世界的な経済不況が長引くことを勘案し、下記の「平成 22 年度予算編成に当たってのガイドライン」を財務委員長より第 594 回理事会に提案し承認を受けた。

- ①収支バランスのとれた健全な財務内容を目指す
- ②例外を設けずあらゆる事業活動、経費、その他の費用見直しを実施する
- ③事業の戦略的投資及び活動には将来の成長性と重要度を考慮し、優先順位を明確にして予算化する
- ④基本支部費は会費総収入予算の 16.2%とする
- ⑤部会固定費補助は平成 21 年度で中止する

(当初平成 22 年度までの 3 年間継続する予定であった)

本ガイドラインに基づき各事業委員会から申請された予算(案)を第 2 回(平成 21 年 11 月)及び第 3 回(平成 21 年 12 月)の財務委員会で予算審議を行った。

平成 22 年度に実施される環太平洋国際化学会議、コロイドおよび界面化学部会国際会議関連の予算を含めると、予算規模は 10 億円超となった。環太平洋国際化学会議関連予算(1 億 8 千万円)を除いた、通年レベルの予算案は下記の通りである。

平成 22 年度事業活動収入は 771,586,000 円で、平成 21 年度決算予測の事業活動収入比較では 17,789,000 円の減少、事業活動支出は 791,442,000 円で平成 21 年度決算予測の支出比較では 34,689,000 円の減少となり、事業活動の予算規模縮小が続いている。

平成 22 年度事業活動の収支については、平成 21 年度決算予測収支に比べると、マイナス幅は減少しているが、引き続き△19,856,000 円の赤字である。

しかし、投資活動を含めた平成 22 年度予算総額では予備費 6,300,000 円を計上した上で収支バランスした予算作成となった。

	収入計	支出計	収支
平成 21 年度予算総額	949,019,000	960,958,000	△ 11,939,000
平成 21 年度事業活動決算 予測	789,375,000	826,124,000	△ 36,749,000
平成 22 年度事業活動予算	771,586,000	791,442,000	△ 19,856,000
平成 22 年度予算総額	828,344,000	828,344,000	0

支部予算についても同様な審議を行ったが、支部総額で△8,502,000 円の赤字予算となっており、9,665,000 円の資産取崩しが計画されている。財務委員会での審議の結果、支部における予算執行での事業活動の見直しを含めた「選択と集中」の徹底等を行い「可能な限り資産取り崩しを少なくする」健全な予算運営を求める提案を行った。

平成 22 年度予算案は、上記意見書を付議して第 596 回の理事会に諮り承認された。

5. 公益認定申請

公益法人会計に対応する事業組み換え、書類作成等準備を継続中である。

4) 職員人事委員会

平成 21 年度は主としてメールにより委員会を開催し、①職員の人事異動ならびに再雇用、②嘱託事務員からの要望書に対する回答ならびに嘱託事務員就業規則改正案、等について審議し、運営会議・理事会に提案した。

5) 役員選考委員会

今年度の役員選考委員会は 1 回開催し、平成 22 年度の役員を選考した。

6) 各賞選考委員会

- ①学会賞選考委員会：委員会を 2 回開催し、平成 21 年度学会賞受賞者 6 件を選考した。
- ②学術賞・進歩賞選考委員会：委員会を 1 回開催し、平成 21 年度学術賞受賞者 8 件、進歩賞受賞者 8 件を選考した。
- ③化学技術賞等選考委員会：委員会を 1 回開催し、平成 21 年度化学技術賞受賞者 4 件、化学技術有功賞 1 件を選考した。
- ④化学教育賞等選考委員会：委員会を 1 回開催し、平成 21 年度化学教育賞受賞者 2 件、化学教育有功賞 5 件を選考した。
- ⑤フェロー選考委員会：委員会を 1 回開催し、平成 21 年度「日本化学会フェロー」11 名を選考した。

(3) 研究交流部門

平成 21 年度は会議開催はなし

1) 学術研究活性化委員会

平成 21 年度は会議を 4 回開催し、以下を検討した。

1. 第二次先端ウォッチング調査

『第二次先端ウォッチング調査』は、複数の化学関連領域にインパクトを与え、新領域への発展が期待されるテーマについて調査を行っている。本年度は「ゲノムケミストリー」、「フォトクロミズム」の 2 件の調査を行い報告書を作成した。

2. 中長期シンポジウム

中・長期的な視点から特別企画を継続的に春季年会実行委員会に提案しており、第 90 春季年会では以下 5 件のシンポジウムが実施される。

「複合的食品機能の定量解析研究」「二酸化炭素固定化反応の新展開：基礎科学からのアプローチ」「天然有機化合物の全合成：効率的分子構築のための新しい反応と戦略」「細胞生物学のケミカルバイオロジー」「超分子金属錯体-超分子構造から機能への展開」

3. アジア国際シンポジウム

春季年会の活性化を目的としてアジア地域の若手研究者を招聘して国際シンポジウムを開催しており、昨年(第 89 春季年会)では 10 ディビジョンで 27 名を招聘した。第 90 春季年会では 7 ディビジョン(光化学、理論化学・情報化学・計算化学、無機化学/錯体化学・有機金属化学、天然物化学・生命科学、ナノテク・材料化学、コロイド・界面化学、環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー) 18 名を招聘して開催する。

4. 部会とディビジョンのあり方検討

将来構想委員会からの付託により、部会とディビジョンのあり方について検討を開始した。

5. CS3 テーマ選定・出席者選定

第 2 回(2010 年開催)のテーマについて、「エネルギー」と「ニューマテリアル」をテーマ案として選定した。各国と協議の結果、テーマは「サステナブルマテリアル」となり、日本側のサイエンスコミッティメンバーとして、橋本和仁氏(東大)を選出した。

2) ディビジョン運営委員会

本年度は会議を2回開催。現在約20,000名の会員が21ディビジョンに登録済み。

第89春季年会会期中にディビジョン主査の会議を開催し、ディビジョンの運営・事業活動、本部からの依頼事項、および主査の任務を説明した。

3) 春季年会実行委員会

1. 第89春季年会(2009)

平成21年3月27日(金)～30日(月)、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催。総講演件数5,881件、参加登録者8,247名。新たな試みとして1)講演予稿集DVD-ROM化、2)国際化対応(予稿集DVD-ROMの英語化、予稿記載内容に英文アブストラクトを追加)を実施した。

2. 第90春季年会(2010)

平成22年3月26日(土)～29日(火)、近畿大学本部キャンパスで開催予定。総講演件数5,793件、参加登録者未定。新たな試みとして1)講演プログラムの別冊化(従来は化学と工業に収録)、2)講演予稿集(冊子)の4分冊化(従来は2分冊)、3)アドバンスト・テクノロジー・プログラムにおいてパネルディスカッション、インキュベーションタイム、交流会等を実施する。

4) 部会・研究会・新領域研究グループ

1. 部会：コロイドおよび界面化学、情報化学、生体機能関連化学、バイオテクノロジー、有機結晶の5部会において、例年どおり講習会、シンポジウムの実施、ニュースレター、電子ジャーナル(情報化学部会)の発行など事業が順調に推進されている。

2. 研究会：現在以下3つの研究会が活動しており、22年度は「分子情報ダイナミクス研究会」を除く2つの研究会が活動を継続する予定である。

「糖鎖化学研究会」、「分子情報ダイナミクス研究会」、「フロンティア生命化学研究会」

3. 新領域研究グループ：本年度「ナノスケール分子デバイス」が設置され、現在以下3つのグループが活動しており、22年度も活動を継続する予定である。

「低次元無機-有機複合系の光化学」、「金属と分子集合」、「ナノスケール分子デバイス」

5) 国際交流委員会

今年度は委員会を1回開催し、以下を検討した。

1. アジア化学会議誘致委員会

第595回理事会においてアジアでの活動を強化し、日本化学会のアジアにおけるプレゼンス向上を図る取り組みを行うことを確認した。9月に上海で行われたFACS(アジア化学会連合)総会において2013年の15ACC(第15回アジア化学会議)開催国に立候補したが、シンガポールに決定し、日本誘致は実現しなかった。本会はNewsletter編集委員長の役割を担うこととなり、鈴木教之教授(上智大)が就任した。

2. IUPAC関係

IUPAC賛助会員委員会を1回開催。IUPAC預かり金の取り扱い、役割・責任を明確にするため内規改定を提案し、承認した。2009年4月7～9日、COCI戦略会議・ワークショップを開催した(於 神奈川科学技術アカデミー)。

3. 2010 環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM 2010) [日・米・加・豪・ニュージーランド・韓・中]

5月12～13日にカナダ・バンフで国際組織委員会が開催され、参加登録費、シンポジウムの最終採択等について討議。全体で236件のシンポジウムを採択した。またその後のメール審議により、事前参加登録費を625US\$と決定した。2010年1月より発表募集を開始(締切4月5日)、6月にホノルルにおいて国際組織委員会を開催し、すべての企画案の審議、円建て登録費の決定など、12月の本会議に向け詰めの協議を行なう。

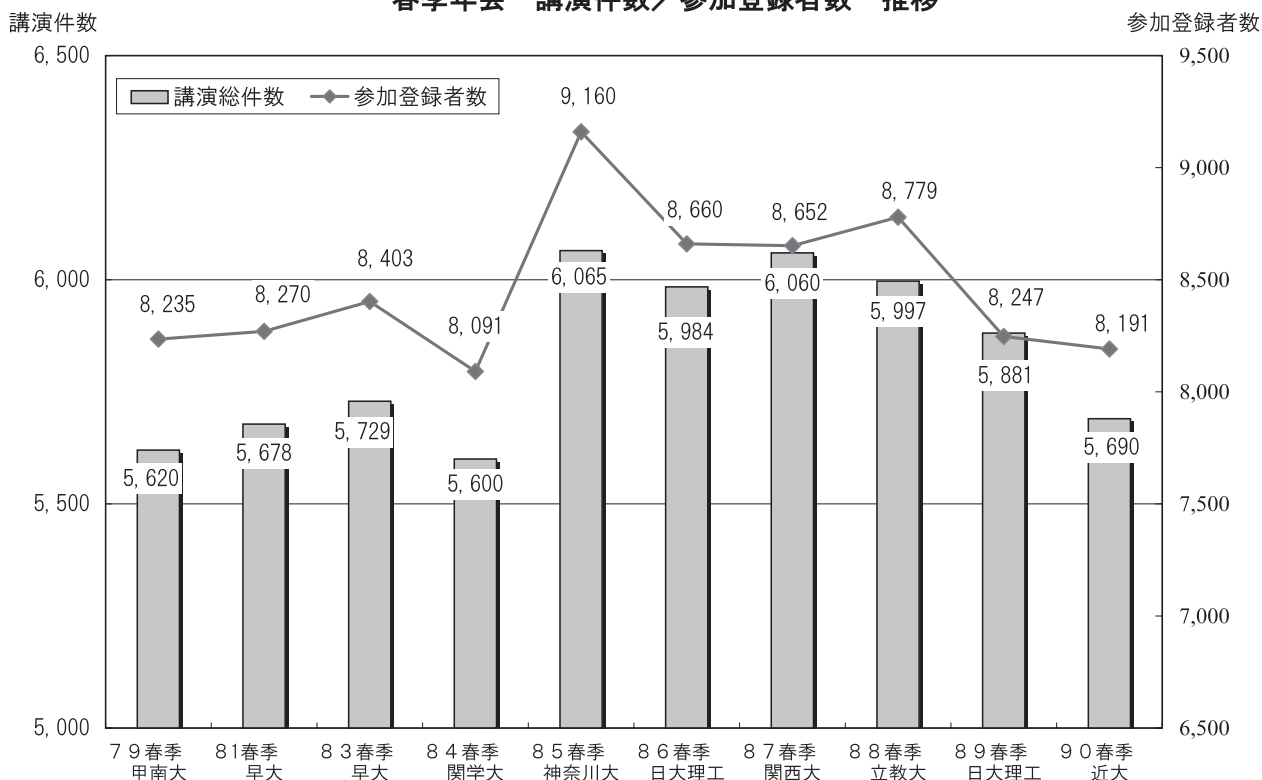
4. 二国間協定

中国化学会代表団18名を第89春季年会時に迎え、二国間協定を締結した。覚書に基づき若手化学者によるフォーラムを中国化学会年会(アモイ、6月)で実施することになった。

5. CS3 (Chemical Science and Society Symposium)

英、米、独、日、中の化学会およびFunding Agencyが連携して、特定のテーマに絞り、世界の第一線の化学者を集め討論を行なう。第1回目は7月22～26日にドイツのKloster Seeonで“Sunlight to Power the World”をテーマに開催された。

春季年会 講演件数/参加登録者数 推移



日本からは日本学術振興会の代表1名を含めた7名が参加。討議の結果を白書としてまとめた。(本会ホームページ <http://www.chemistry.or.jp/news/cs3-whitepaper.pdf>)。次回は22年9月にイギリスで“Sustainable Materials”をテーマに開催予定。

6. ナカニシシンポジウム (Nakanishi Symposium)

昨年9～10月に2回の選考委員会を開催し、2010年度受賞者として山村庄亮氏(慶大名誉)を選出。3月末の第90春季年会の特別企画としてナカニシシンポジウムを開催し、授賞式と共に受賞講演を行う。

7. PCCP賞

イギリス王立化学会より本会に対し協力要請があったRoyal Society of Chemistry, PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) and Faraday Discussionの“PCCP Prize”受賞候補者の推薦を各ディビジョンから仰ぎ、3名の若手研究者を選定した。受賞者には第89春季年会においてRSCのProf. Garner会長から賞状と副賞が手渡された。22年度も選定し第90春季年会で授賞式を行なう。

8. その他

①化合物命名法小委員会

Nomenclature of Inorganic Chemistry - IUPAC Recommendation 2005の発表を受けて、「無機化学命名法 IUPAC2005年勧告」(通称:レッドブック)の刊行作業を行った。

新規化合物112番元素Coperniciumの日本名を「コペルニシウム」と命名、発表した。

②原子量小委員会

2007年にIUPAC「原子量および同位体存在度委員会(CIAAW)」で発表された、原子量表の改訂をもとに本会として独自の原子量表を作成。

③単位・記号小委員会

「物理化学で用いられる量・単位・記号 第3版」の発表を受けて要約版を発行、「グリーンブック要約版」として本会で販売予定。「化学で使われる量・単位・記号」を作成。

④主催国際会議

第14回国際生物無機化学会議:H21年7月25日～7月30日、名古屋国際会議場[組織委員長 渡辺芳人(名大)](14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (ICBIC 14))

6) 化学遺産委員会

本年度は委員会を5回開催した。

1. 化学・化学史に関する史料の収集・整理・保管とそれらの情報のデータベース化と公開
・現在530点を収集・保管。収集した史料の保管は次年度より国立科学博物館に移管予定。
2. 化学・化学技術の分野で大きな業績を残された諸先達にインタビューを行い、それを映像と音声および冊子体で後世に残す事業[化学語り部・オーラルヒストリー]
・本会元会長ならびに名誉会員等4名のインタビューを行った。
3. 化学・化学技術史に関する一般市民への啓発事業
・第89春季年会:第3回化学遺産市民講座「戦後日本の技術革新と化学産業の発展」と史料展示会
・第90春季年会:第4回目の企画「化学遺産の認定」
4. 化学関連の文化遺産を認定し社会に向けて発信する「化学遺産認定制度」の実施
・化学遺産認定制度を提案し、第594回理事会で承認を得た。
・委員会内に化学遺産調査委員会(規程・基準・候補の調査)、化学遺産認定委員会(候補の審議・決定)をそれぞれ設置し、活動を行った。第596回理事会で第1回認定候補として下記6件が承認された。
※宇田川裕菴化学関係資料、※上中啓三アドレナリン実験

ノート、※具留多味酸試料、※ルブラン法炭酸ソーダ製造装置塩酸吸収塔、※ビスコース法レーヨン工業の発祥を示す資料、※カザレー式アンモニア合成装置および関連資料

7) 男女共同参画推進委員会

第9回シンポジウムの反省、アンケートの解析および次回への対応策の検討を行った。次回は第10回記念シンポジウム男女共同参画の過去・現在・未来とし、基調講演を塩満典子氏(JST)、依頼講演は武井史江氏、相馬委員、森委員の4講演で行うことを決定した。女性理事枠の増員および支部役員への女性会員の登用について理事会、支部長会に要望した。各支部に男女共同参画シンポジウムの開催を要望することを決めた。男女共同参画学協会連絡会企画の第7回シンポジウム、2009年女子中高生夏の学校および女子中高生のための関西科学塾に企画担当し参加した。

(4) 学術情報部門

学術情報部門会議は論文誌に議題を集中し、論文誌関係理事と編集委員長を中心とした会合とした。今年度は、部門会議とは別に、論文誌事業を見直すワーキンググループを作り、戦略を討議した。一方、化工誌は、化工誌編集委員会の幹事会を毎月開き毎号の編集方針と記事の内容を討議した。

本年度は拡大学術情報部門会議を1回開催した。

1) 22年度各誌編集委員長

化工誌:西郷 和彦(東大)[留任]

欧文誌:入江 正浩(立教大)[留任]

速報誌:檜山爲次郎(京大)[留任]

なお、本年度から論文誌の編集委員長任期は、各巻にあわせて、1月から12月とした。

2) 各編集委員会

1. 化工誌編集委員会

2回開催し、企画のアイデアや編集方針を打ち合わせた。

2. 化工誌編集幹事会

21年も、「化学と工業」誌の充実を図るべく、毎月幹事会を開催し、各号の企画案を討議した。

昨年1年、巻頭言と論説の英訳を和文と併せて掲載した。読者からの反響は特になかったが、平成22年1月からは、英文を白黒のページに移して、継続することとした。

委員会開催回数:編集委員会2回、幹事会11回。

発行状況:総頁数1,620頁 総発行部数:343,300部

3. 広告委員会

毎月、代理店の明報社の担当を交えて委員会を開催し、広告特集の企画案や、記事に関連した広告の依頼方法を検討した。コンベンションセンター特集など、新分野の開拓を試みたが果たせなかった。委員長は西村淳(群馬大名誉)から吉川暹(京大)に交代する。

4. 欧文誌編集委員会

委員会開催回数:本委員会2回、幹事会12回

発行状況:論文掲載199件、総頁数1,860頁、総発行部数:28,800部

5. 速報誌編集委員会

委員会開催回数:3回

発行状況:論文掲載565件、総頁数1,520頁、総発行部数:31,900部

(5) 産学交流・人材育成部門

1) 産学交流委員会

産学交流委員会では、本年度3回の幹事会を開催し、下記事項について審議したほか、傘下の3小委員会(年会企画小委員会、教育企画小委員会、懇話会企画小委員会)で本年度も例年同様、様々な事業企画を立案し、実行した。また、運営会議・理事会から付託された事項(次年度産業界選出役員候補者の推薦・化学技

術賞等の受賞候補者推薦など)、および関係委員会からの協力要請事項(化工誌産業界関連記事「企業だより」「ATPトピックス」「研究の現場から」の企画)について検討し、これに協力した。

1. 産学交流シンポジウム

第89春季年会において「環境ナノテクノロジー-石油リファイナーの転換と省エネに貢献するナノテック-」のテーマでシンポジウムを実施した。また、第90春季年会においては「化学の世界をシミュレーション」のテーマでシンポジウムを企画した。

2. 優秀講演賞(産業)の選考

第89春季年会においても、産業界関係者41名が聴講、審査を行い、申請153件から11名を表彰した。

3. 実力養成化学スクール

化学技術者の基礎化学力の向上を目的として、特定テーマ別に2日間の集中講義を実施。本年度は基礎化学5コース(高分子化学、電子部品・材料の物性化学、物理化学、有機合成化学、ナノバイオテクノロジー)を企画したが、経済状況の悪化により、最少催行人数に達しなかった有機合成化学、物理化学、ナノバイオテクノロジーの催行を中止した。

4. R & D懇話会

企業所属会員の少人数による研究会・勉強会として、トピックステーマの講演会と懇親会からなる定例会を開催(会員数:個人会員67名,法人会員34社)。今期は次のテーマで4回開催した。

①再生医療最前線-組織構築を目指して、②自動車用リチウムイオン電池の開発状況、③窒化物半導体の現状、④帝人グループの研究開発

5. 産学交流フォーラム

「環境・資源・エネルギーの将来展望と化学技術の貢献」のテーマで12月に実施した。

6. 技術開発フォーラム

昨年度から半日で最先端技術情報を議論するフォーラムとして再編実施。「触媒技術開発最前線-研究開発のカギを握る物質、技術そして反応-」、「新規分子検出システムによる次世代バイオ分析」のテーマで2回実施した。

7. その他

就職交流会(大学の就職担当教員と企業の人事担当者交流会)、企業の研究紹介などを実施した。

2) 化学技術者教育委員会

今年度は2回、会議を開催した。本委員会では、化学分野JABEE委員会に委員を派遣して、化学分野のJABEE審査活動を支えるとともに、日本工学会CPD協議会、工学教育連合講演会実行委員会に委員を派遣して情報収集を行い、化学会としての対応を議論した。

3) 博士セミナー実行委員会

今年度は実行委員会を5回開催し、第89春季年会での年会博士セミナーを企画、実行するとともに、名古屋・福岡の2箇所での博士セミナーを実施して、東京・大阪以外でのニーズを確認した。尚、名古屋、福岡での博士セミナーでは、昨年までの2日コースから1日コースに短縮してコンパクトな企画とした。また、第90春季年会での年会博士セミナーを企画した。

(6) 化学教育協議会

化学教育協議会の進むべき道一目立つ形に、頼られる存在に—
1. 学校教育の充実、2. 化学の普及、3. 機関誌「化学と教育」の更なる充実との基本姿勢に基づき下記を重点課題として実施した。

- ・「化学と教育」誌の誌面ならびに編集体制の抜本的刷新の実施
- ・関係諸団体との連携事業の継続的推進
- ・全国高校化学グランプリの運営体制の検討
- ・化学教育フォーラム『理科・化学の普及交流を考える』を2009年3月30日に日本大学船橋キャンパスで実施

1) 役員会〔議長:井上 祥平〕

本年度役員会を1回開催した。

2) 幹事会〔委員長:下井 守〕

本年度幹事会を4回開催した。

化学教育協議会傘下の各委員会の具体的な活動は以下の通り

1) 学校教育委員会

平成21年度の委員会は開催なし。傘下の小委員会・WGの活動を以下にまとめた。

①化学の本WG

化学同人から大学生向けのテキストの出版について、現在基礎編を作成中。

②21年度入試問題検討WG

例年どおり旺文社の『全国大学入試問題正解 化学(2009年受験用)』に掲載の83大学91学部の入試問題の検討結果を化工誌(抜粋)、化教誌(全文)に掲載した。また、『全国大学入試問題正解 化学(2010年受験用)』に掲載の82大学90学部の入試問題の検討を行った。検討結果は化工誌(抜粋)、化教誌(全文)に掲載予定。また、センター試験(化学I、理科総合A)の評価を行った。

③国際調査WG

「諸外国では初等理科教育をどのように進めているか」をテーマに調査を実施した。調査内容は化教誌に順次掲載予定。

④マイクロスケール化学実験WG

マイクロスケール化学実験に関し、研修会等の普及活動を行った。

⑤教員免許更新講習WG

21年度中に企画を行い、22年度から実施する予定であったが、新政権が教員免許制度の抜本的見直しを打ち出したため、企画を中止した。

2) 普及・交流委員会

平成21年度は3回開催し、各小委員会・TGの進捗状況の確認を行った。また、外部からの依頼により実験講師を紹介した。傘下の小委員会・WGの活動を以下にまとめた。

①国際関係小委員会

東京学芸大学で開催の“Network of Interasian Chemical Educators (NICE)”第3回ミーティングの企画・運営に協力した。

②化学だいきクラブ小委員会

中高生向けの『化学だいきクラブ Newsletter』(16ページ,年4回)、および、小学生向けの『化学だいきキッズ』(4ページ,年2回)を発行した。

③クイズショーTG

夢・化学-21委員会事業の『夏休み子ども化学実験ショー(会場:日本科学未来館,会期:8月1,2日)』で、1日、2日の両日に各1回クイズショーを実施した。

④わくわく理科タイムTG

例年通り、朝日小学生新聞の毎週水曜日の紙面に記事を掲載していたが、朝日新聞社の方針で11月25日の掲載をもって終了となった。

⑤実験体験TG

『理科大好きボランティア』の助成を利用して、教員、保育士、児童、青少年に対して実験教室を実施した。

⑥化学教育フォーラム企画TG

2009年3月30日に日本大学船橋キャンパスで第16回化学教育フォーラム『理科・化学の普及交流を考える』を実施。また、2010年3月27日に近畿大学本部キャンパスで実施する第17回化学教育フォーラム『新学習指導要領と新しい理科(化学)教育のすがた』の企画を行った。

3) 化教誌編集委員会

平成21年度は編集委員会を3回、編集幹事会を6回開催した。

- ①誌面改革・査読審査体制の変更を引き続き行っている。
- ②実際の運営の中で生じた問題に対して、必要に応じて体制の変更を決定し、実行した。
- ③実験に関する掲載記事については、企画内容を見直すことを、来年度の課題とした。

4) 化学グランプリ・オリンピック委員会

平成 21 年度は全体会議を 1 回、運営幹事会を 3 回、その他 WG を数回開催した。活動内容を以下にまとめた。

①全国高校化学グランプリ 2009：

○一次選考 7 月 20 日（月）：全国 55 会場で実施し、3,078 名が参加した。

○二次選考 8 月 22 日、23 日（土、日）：一次選考上位 81 名（うち中学 3 年生、高校 1、2 年生 19 名）を対象に京都大学吉田キャンパスで実施した。一次・二次選考の総合成績により、大賞 5 名、金賞 17 名、銀賞 20 名、銅賞 39 名をそれぞれ選出した。

○オリンピック代表：二次選考に進んだ中学 3 年、高校 1、2 年生の 18 名、ならびにこの中に代表候補が含まれていない各支部化学教育協議会から推薦された 2 名を加えた合計 20 名を代表候補に認定した。この 20 名に対し 2010 年 1 月 6 日（水）に第一次選抜を実施し 9 名に絞った。3 月末の最終選抜試験により代表 4 名を決定する。

②第 41 回国際化学オリンピック（イギリス・ケンブリッジ 2009.7.18-27）に 4 名の生徒を派遣した。金 2、銀 1、銅 1 受賞。

③普及のためにポスター、パンフレットを作成した。

④規模拡大による業務増大に対応するため、全国高校化学グランプリの運営体制の検討を開始した。

5) 広報室

平成 21 年度は会議を 1 回開催した。本協議会の活動の情報を発信するため、協議会 HP の管理・運営、ならびに化教誌「協議会だより」欄・化工誌「化学会発」欄への記事の執筆を依頼した。

6) 関係諸団体連絡室

関係団体の「教科「理科」関連学会協議会」、並びに「理数系学会教育問題連絡会」の活動に参画した。

①教科「理科」関連学会協議会（CSERS）

2 か月に 1 回、協議会を開催（2009 年度幹事学会は地学物教育学会で世話役は内記昭彦先生）。第 14 回シンポジウム『新学習指導要領高校理科を実践する上での課題』を 2009 年 12 月 12 日（土）に化学会館ホールで開催した。

②理数系学会教育問題連絡会

2 か月に 1 回連絡会を開催（2009 年度の幹事学会は数学部門で世話役は真鳥秀行先生）。新学習指導要領、教員免許更新制度、各学会の状況などの情報交換を行なった。

(7) 環境・安全推進委員会

本年度委員会は 1 回開催した。

1) 推進委員会

環境・安全シンポジウム：89 春季年会において、「環境安全に配慮できる人材の育成－大学における教育の現状と方向性」をテーマに開催。

環境・安全問題見学会：三井化学㈱市原工場を訪問。環境安全に関する講演と研究概要の説明を受けるとともに、生産関連施設および工場敷地を見学し、質疑応答および意見交換を行った。

2) 防災小委員会

化学安全スクーリング：「化学実験室における安全管理指導者の養成」をテーマに 2 日間コースで開催。

化学防災指針セミナー：インテックス大阪（全日本科学機器展 in 大阪 2009、連動セミナー）において、「混合危険の事故事例と対策」をテーマに開催。

3) 教育小委員会

環境教育講演会：「大気科学の最前線と環境教育」をテーマに開催。

理科教育セミナー：インテックス大阪（全日本科学機器展 in 大阪 2009、社会貢献セミナー）において、「実験で知る理科授業最前線」をテーマに開催。

4) 事業小委員会

化学物質リスクマネジメント講座：「ナノテク物質の安全性と化学物質管理のマネジメント」をテーマに開催。

環境問題セミナー：インテックス大阪（全日本科学機器展 in 大阪 2009、学会連動セミナー）において、「欧州 REACH 規則による化学物質の規制と分析技術」をテーマに開催。

化学プラント安全管理セミナー：「ヒューマンファクターと高経年化設備を検証する」をテーマに開催。

日本化学会フォーラム：本会のみならず外部に向けた情報発信機能を高めるため、「全日本科学機器展 in 大阪 2009」（主催：日本科学機器団体連合会、フジサンケイ ビジネスアイ）において、本会関係機関と連携しながら、学会連動セミナー 3 本、社会貢献セミナー 1 本からなる「日本化学会フォーラム」を企画。

各種事業の支援：本推進委員会各種事業の広報ならびに運営に関する支援を行った。

5) 関連組織との連携

環境工学連合講演会安全工学シンポジウムの企画に関与した。このほか、グリーン・サステナブルケミストリーネットワーク（GSCN）、環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー（ディビジョン）等の各組織との連携を行った。

IX. 平成 21 年度支部事業

(1) 北海道支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見 学 会	その他	懇 親 会	参 加 者 数
支部役員幹事会	3				1	69
化学教育協議会	2				1	19
学会賞・学術賞等推薦委員会	1					5
支部役員選考委員会	1					7
北海道支部代議員会	2					16
北海道支部奨励賞選考委員会	1					6
北海道支部優秀講演賞選考委員会	1					12
会長懇談会	1				1	19
夏季研究発表会（支部大会）	1	117 (2)			1	206
外国人講演会	9		9			373
日本人講演会	4		4			212
地区化学講演会						
旭川	1		1		1	92
北見	1		1		1	45
函館	1		2		1	39
安全・環境講習会	1		1		1	61
化学系大学への体験入学	1		(2)	実験 26		137
地区化学教育研究協議会	1	4 (1)			1	54
中学生のための化学実験講座						
旭川	1			実験 5		53
苫小牧	1			実験 12		18
函館	1			実験 2		46
札幌	1			実験 6		13

中学生高校生のための化学 全国高校化学グランプリ 2009 第一選考	2 2 会場			実験 2	170 77				
高校化学グランプリ北海道支部長 賞表彰	1			表彰 4					
高校理科クラブ支部奨励賞表彰	1			表彰 1					
北見おもしろ科学実験	1			実験 22	494				
化学系学協会北海道支部 冬季研究発表会	1	96 (1)		ポスター 63 件	385	1			
共催討論会	3	16 (18)		ポスター 103 件	387				
セミナー共催	2	(12)		ポスター 13 件	327				
支部賞表彰	1			表彰 3					
支部奨励賞表彰	1			表彰 3					
支部優秀講演賞・ポスター賞表彰	1			表彰 8					
化学イノベーション	1	5			200				

(2) 東北支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
【会議】						
第 1 回幹事会	1				1	29
東北大会連絡会議	1					16
学会賞等推薦委員会	1					6
東北大会プログラム編成会議	1					16
9 学協会支部長会議	1					6
第 2 回幹事会	1					23
代議員会	1					3
引継ぎ幹事会	1				1	37
【講演会・講習会】						
化学系学協会東北大会	1	306 (3)			1	393
青森地区講演会	1	3			1	93
秋田地区講演会	1	2			1	45
岩手地区講演会	1	3			1	92
宮城地区講演会	1	3			1	20
山形地区講演会	1	2		体験学 習 1		82
高分子コロキウム	1	2				55
無機・分析コロキウム	1	10			1	87
有機化学コロキウム	1	3				56
ナノマテリアルコロキウム	1	7				40
物理化学コロキウム	1	9				70
【化学普及事業】						
化学教育研究協議会東北大会	1	19 (1)			1	64
第 175 回化学への招待 岩手地区	1			実験 1		48
第 176 回化学への招待 米沢地区	1			実験 2		29
第 177 回化学への招待 郡山地区	1			実験 5		27
第 178 回化学への招待 宮城地区	1			実験 1		26
第 179 回化学への招待 山形地区	1			実験 4		73
第 180 回化学への招待 弘前地区	1		1	実験 5		75
第 181 回化学への招待 いわき地区	1			実験 3		82
第 182 回化学への招待 秋田地区	1		1	実験 1		32
第 183 回化学への招待 八戸地区	1			実験 (選択 式)		35
第 184 回化学への招待 - 中学生のための化学実験講座 -	講師 巡回			巡回実 験 (テーマ 多数)		561
第 32 回 教師のための化学教育 講座	1	2		実験 2	1	
高校化学グランプリ支部表彰 東北支部長賞	1			賞状授与 賞状授与		10 33
【共催・協賛】						
第 185 回 化学への招待 - 中高生のためのオータムレク チャー -	1		1	実験 1		50

高専シンポジウム ジュニア化学への招待	1 年 に 5 回								550
第 13 回フロンティア・インキュ ナブラ講演会	1								
第 4 回物質機能・エネルギー科学 系講演会	1								47

(3) 関東支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	5				2	148
常任幹事会	1					10
代議員会	1				1	67
各賞推薦委員会	1					13
会員委員会	1					16
代表正会員懇談会	1					25
事業企画委員会	2					21
支部化学教育協議会関係						
・全体会議	1				1	23
・理科・化学教育懇談会小委員会	1					4
・化学クラブ小委員会	1					6
・化学への招待小委員会	2					11
就職交流会 WG 会合	0					
化学ミュージアム運営委員会	1					8
第 4 回関東支部大会実行委員会	2					23
第 3 回関東支部大会	1	478			1	869
講演会「電子ペーパーの実用化最 前線と次世代表示技術」	1	6				26
講演会「階層的構造制御と機能創 成」	1		8			38
講演会「太陽電池技術の現状と将 来」	1		6			66
講演会「バイオマス変換最前線」	1		7			38
特別講演会	0					
電子メール配信	26					
地域懇談会						
・茨城地区						
第 20 回研究交流会	1		1	ポスター 発表 91 件	1	220
高校訪問講義・実験など	12					
・栃木地区						
高校訪問講義・実験など	5					
講演会	2		2			100
地区懇談会	1					
・群馬地区						
講演会	1		2			250
理科教育談話会	1		2			30
地域懇談会	1		1	ポスター 発表 45 件		67
講師派遣	67					
・山梨地区						
講演会	2		3			215
高校・大学化学系教員懇談会	1					28
・新潟地区						
[新潟地区]						
学校訪問実験	2		2			48
地域懇談会企業交流・講演会						
[長岡地区]						
分子科学サマースクール	1					10
啓蒙実験・化学のおもちゃ箱	1					513
企業説明会	1					70
公開講座	6					477
出前授業	13					326
地方大会	1	82 (3)				250
・埼玉地区						
講演会	6		11			490
体験教室他	3					336
学校訪問講義	8		8			

・千葉地区 学校訪問実験	4				127	
千葉地区高校教諭と大学教員の 交流会	3	6				
実験教室	2				37	
・神奈川地区 講演会（実験・講義）	1	3				
学校訪問授業	1	2			54	
・東京地区 学校訪問講義実験	1	1			30	
化学教育関連事業						
・化学への招待－講演会	1	2			125	
・化学への招待－1日体験化学教 教室						
－茨城大学1日体験化学教室	1	1	実験10 テーマ		47	
－宇都宮大学1日体験化学教 教室	1	1	実験10 テーマ		68	
－神奈川大学湘南ひらつか キャンパス1日体験化学教室	1	6	実験6 テーマ		51	
－関東学院大学1日体験化学 教室	1		実験3 テーマ		46	
－群馬大学1日体験化学教室	1		実験12 テーマ		150	
－首都大学東京1日体験化学 教室	1		実験11 テーマ		120	
－城西大学1日体験化学教室	1	1	演示実験 4テーマ 参加実験 4テーマ		24	
－成蹊大学1日体験科学教室	1	1	実験12 テーマ		106	
－千葉大学1日体験科学教室	2		実験4 テーマ		33	
－筑波大学1日体験化学教室	1		実験16 テーマ		180	
－東京工業大学1日体験化学 教室	1	1	実験8 テーマ		69	
－東京大学1日体験化学教室	1	1	実験10 テーマ		72	
－東邦大学夏休み理科教室	2	1	実験2 テーマ		38	
－新潟大学1日体験化学教室	1	1	実験22 テーマ		126	
－日本大学理工学部1日体験 化学教室	1		実験9 テーマ		92	
－山梨大学1日体験化学教室	1		実験14 テーマ		158	
－横浜国立大学1日体験物質 工学教室	1		実験7 テーマ		73	
・全国高校化学グランプリ2009 一次選考会場運営	1		11会場		800	
・第13回理科・化学教育懇談会 フォーラム	1	3			64	
・化学クラブ研究発表会	1		発表55 件		366	
・化学実験実技講習会	1	1			30	
・楽しい化学の実験室	8				131	
・高校生のための化学実験講座	6				34	
・化学実験講座	6				92	

(4) 東海支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	2				1	
常任幹事会	3					
代議員会	2					
学会賞等推薦委員会	1					
代表正会員会議	1					
会長懇談会	1					
第40回中化連秋季大会	1	383 (2)			1	638
名古屋コンファレンス	1		14		1	132
東海コンファレンス	1		5		1	110

地区講演会	1	3				41
東海地区若手会	1	3				73
化学安全セミナー	1	3		1		63
先端化学セミナー	1	3				22
訪日学者講演会						
Prof. Alain Tressaud	1	1				25
Dr. Kuberan Balagurunathan	1	1				19
Olivia Reinaud	1	1				53
Prof. Daniel Lincot	1	1				30
Prof. Dr. Thomas Wirth	1	1				27
Prof. Dr. Duangjai Nacapricha	1	1				30
Prof. Yian Shi	1	1				35
中学生のための化学講座						
沼津高専	3		3			47
鈴鹿高専	1		6			24
東海地区化学教育討論	1	7		1		61
化学への招待	1	2		1		38
化学教育セミナー	1	2				75
高等学校化学研究発表交流会	1		10			80
講師派遣事業						
愛知	1		1			80
三重	1		1			40
岐阜	3		3			92
高校生のための化学講座						
岐阜（岐阜大工）	1		8			74
三重（三重大工）	1		11	1		148
静岡（静岡大工）	1	3				26
長野（信州大繊維）	1	2	12			37
共催・協賛事業						
色材セミナー	1	3				43
第12回「リフレッシュ理科教室」	1		10			2,462
第33回基礎化学工学演習講座	1					67
学術講演会（電気化学会東海支 部）	1					57
第19回基礎及び最新の分析化 学講習会	1	8				36
東海化学工業会セミナー	1	4				34
第17回東海高分子基礎研修コー ス	1	9				48
第42回化学工学の進歩講習会	1	12				78
東海シンポジウム（高分子学会 東海支部）	1	11				128

(5) 近畿支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	4				2	158
WG会議	2					73
代議員会	1					25
学会賞等推薦委員会	1					36
化学教育協議会	3					48
化学への招待企画小委員会	1					7
北陸地区講演会と研究発表会	1	2		ポスター 157件	1	190
第16回化学安全講習会	1	8				53
研究最前線講演会	1	4			1	105
講習会「研究室で実現できる最新 化学計算」	1	2		実習あり		16
化学教育サロン	1		1	パネル ディス カッショ ン	1	38
理科・化学教育サロン in TOYAMA	1	3			1	40
化学教育サロン（金沢）	1	3			1	30
大学化学入試問題をめぐる大学～ 高校交流会	1				1	108
第11回工業高等専門学校生化学研 究発表会	1			発表12 件		32
第24回石川地区中学高校生徒化 学研究発表会	1			発表25 件		200
第26回高等学校・中学校生徒化 学研究発表会	1			発表23 件		135

第11回近畿地区 化学教育研究発表会	1		発表8件	39			
化学への招待 ・研究所見学会(大阪府立産業技術総合研究所)	1	1	実験1テーマ	21			
・子と親の楽しいかがく教室(大阪府立工業高等専門学校)	1		実験4テーマ	150			
・子と親の楽しいかがく教室(大阪教育大学)	1	1	実験26テーマ	140			
高等学校出前講演会							
・大阪商業大学高等学校	1	1		40			
・大阪府立西寝屋川高等学校	1	1		55			
・大阪府立箕面東高等学校	1	1		110			
・清風高等学校	1	1		70			
・羽衣学園高等学校	1	1		70			
・兵庫県立伊丹西高等学校	1	1		26			
大阪市立歌島中学校出前授業	1		実験2テーマ	12			
全国高校化学グランプリ2009 第一次選考(大阪, 石川, 富山, 福井, 京都)	5会場						

(6) 中国四国支部

事業名	回数	講演件数()内は特別講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会						
幹事会	3					117
化学教育協議会	2					38
代議員会	1					18
会長と支部役員との懇談会	1					21
西日本大会	1	招待3		口頭およびポスター発表	1	577
地区化学講演会						
鳥取地区化学講演会	1	基調講演12(招待10)				162
徳島地区化学講演会	1	4(招待1)			1	48
支部化学教育研究発表会	1	招待3		口頭およびポスター発表	1	100
支部広報事業						
愛媛: 夢・化学-21 化学への招待体験入学	1			実験		218
鳥取: 夢・化学-21 化学への招待	1			実験		32
広島: 平成18年高校・大学化学教育フォーラム	1	招待2				36
広島: 夢化学21 化学への招待	1					420
岡山: 夢・化学-21 高校生のための岡山大学化学系学科見学会と談話会	1		1	談話会1		75
鳥根: 夢化学21	1			実験3		28
香川: 夢・化学-21in 香川	1			実験3		1,300
徳島: 夢・化学21 化学への招待	1			実験5		40
徳島大学大学院一日博士						
山口: 夢・化学21 理学部サイエンスワールド2009	1			実験		15
高知: 夢・化学21 化学への招待 高知大学理学部体験入学				演示実験7		27
おもしろワクワク化学の世界 '09 鳥根化学展	1			演示実験23		5,690
'08 広島化学展ミニ版	1			実験		100
出張講義				講義		1,234
中国四国支部支部長賞	1			表彰		101
全国高校化学グランプリ	1			表彰		401

第50回中国四国産学連携化学フォーラム	1	招待4				1	58
第51回中国四国産学連携	1	招待3				1	92
化学フォーラム							
情報ネットワーク推進事業	1					HP更新	2
共催事業							
・第46回日本分析化学講習会	1						42
・第55回ポーラログラフイーおよび電気分析化学討論会	1						100
・第6回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	1						87
・第2回臭素化学懇話会発表会	1						180
・夢化学21 化学への招待	1						
一高校生のために							

(7) 九州支部

事業名	回数	講演件数()内は特別講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	1					31
会長懇談会	1					34
常任幹事会	1					17
化学教育協議会	1					19
各賞推薦委員会	1					8
代議員会	1					7
見学会	1					16
九州支部長賞(6高専, 学科, 専攻科)	1			表彰12件		
2009年日本化学会西日本大会(中国四国支部・九州支部主催)		特別講演4件口頭247件		一般10テーマポスター179件	1	
第46回化学関連支部合同九州大会(8学協会共催)	1	8(1)		ポスター644件	1	1100
第30回支部シンポジウム「九州の自然環境とひと」	1	4			1	69
第20回産学交流ユースフォーラム	1			展示10社	1	
第19回高専フォーラム	1	3(1)		ポスター76件 パネルディスカッション		145
環境・安全に関する事業	1	3				
共催・協賛事業						
KFCセラミックス講演会	1	2				37
第27回九州コロイドコロキウム	1	6		ポスターセッション		46
第47回炭素材料夏期セミナー	1	8		ポスター発表15件		60
第46回ペプチド討論会	1	3		ポスター発表180件		1900
第48回工業物理化学講習会	1	4				90
第18回KFCセラミックスセミナー	1	1	1	実習, 講義, 講習		17
第50回分析化学講習会	1	3		講習		65
体験! 化学の不思議 - 化学への招待	1			体験実験		104
第16回九州夏期セラミックス研究会	1	3		ポスター, 企業研究紹介, トピックス講演		53

男女共同参画シンポジウム	1	3 (1)	自由討 論, ポ スター 発表	
12th Kyushu International Symposium on Physical Organic Chemistry	1	56	ポスター 発表 55 件	139
化学への招待				
第 61 回化学への招待(熊本高専)	1		実験, 展示	420
第 62 回化学への招待(熊大院自 然)	1		体験実験	1600
第 63 回化学への招待(九工大)	1		講演 2 件, 実 験 8 件	69
第 64 回化学への招待(九大院総 理工)	1		実験, 見学会	22
九州地区化学普及事業				
福岡県				
第 23 回福岡県高校化学クラブ研 究発表会	1			65
九州地区高校化学クラブ研究発 表会	1			91
「子どもゆめ基金助成」実験講座	1		実験 6 テーマ	26
平成 21 年度福岡県理科・化学教 育懇談会総会	1			47
佐賀県				
第 19 回佐賀県理科・化学教育懇 談会総会	1		メール 会議	
第 20 回佐賀県理科・化学教育懇 談会総会	1		メール 会議	
長崎県				
サイエンスワールド 2009	1			300
長崎県理科・化学教育懇談会総 会	1			30
化学まつり	1			200

大分県									
夏休み子どもサイエンス 2009	1								1588
平成 21 年度高教研理科(化学) 部会秋季研修会	1								25
大分県理科・化学教育懇談会総 会	1								17
熊本県									
第 16 回化学実験講習会	1								21
熊本県理科・化学教育懇談会第 13 回総会	1								13
第 60 回熊本県高等学校生徒理科 研究発表会(化学部門)	1								12 校
化学への招待「夢科学探検 2009」	1								1600
テクノファンタジー 2009	1								2700
宮崎県									
第 9 回高校生のための化学実験 室	1								64
第 6 回高校生のためのマニュ ファクチャリングコンテスト	1								25
第 8 回先生のための科学講座	1								25
宮崎県平成 21 年度定例幹事会	1								11
宮崎県平成 22 年度総会	1								11
鹿児島県									
鹿児島県理科・化学教育懇談会 総会	1								11
沖縄県									
沖縄県理科・化学教育フォーラ ム	1					1			90
沖縄県理科・化学教育懇談会総 会	1								23
全国高校化学グランプリ 2009 第一次選考会								11 会場	587
日本化学会九州支部支部長賞	1								表彰 5 件

X. 平成 22 年度支部役員

(1) 北海道支部

支部長 覚知 豊次(北大院工)
副支部長 中村 博(北大院地環) 小原 寿幸(函館高専)
庶務幹事 佐藤 敏文(北大院工) 田中 俊逸(北大院地環)
会計幹事 堺井 亮介(北大院工)
幹事 清水 祐一(苫小牧高専) 大宮 磨人(PEDJ(株))
坂井 賢一(千歳科技大) 山内 美穂(北大触媒セ)
佐々木皇美(産総研北海道セ)
幅崎 浩樹(北大院工) 古賀 俊勝(室蘭工大)
石森浩一郎(北大院理) 谷野 圭持(北大院理)
青山 陽子(旭川高専) 居城 邦治(北大電子研)
蠣崎 悌司(北教大札幌) 近藤 浩文(理科教育セ)
芥川 智子(道環境研) 川村みどり(北見工大)
鹿野 弘二(函館高専) 安住 和久(北大院工)
環境安全担当 大熊 毅(北大院工) 中村 秀夫(北教大函館)
監査 高橋 保(北大触媒セ) 稲辺 保(北大院理)

(2) 東北支部

支部長 栗原 和枝(東北大多元研)
副支部長 河野 裕彦(東北大院理) 熊谷 直昭(岩手大院工)
化学教育議長 猪股 宏(東北大院工)
化学教育副議長 吉岡 敏明(東北大院環境)
猿渡 英之(宮城教育大)
幹事長 蟹江 澄志(東北大多元研)
幹事 豊田 耕三(東北大院理) 水上 雅史(東北大多元研)
及川 英俊(東北大多元研) 金原 数(東北大多元研)
化学教育幹事 渡邊 賢(東北大院工)
渡辺 尚(仙台二高)

窪田 篤人(仙台西高)

青森地区代表幹事 小比類巻孝幸(八戸工大)
幹事 川上 淳(弘前大院理工)
秋田地区代表幹事 大谷 規隆(秋田大工学資源)
幹事 井上 幸彦(秋田大工学資源)
化学教育幹事 浜井 三洋(秋田大教育文化)
岩手地区代表幹事 森 誠之(岩手大工)
化学教育幹事 武井 隆明(岩手大教育)
山形地区代表幹事 尾形 健明(山形大院理工)
幹事 木島 龍朗(山形大院理工) 瀬川 透(鶴岡高専)
化学教育幹事 大谷 典正(山形大理)
福島地区代表幹事 佐山 信成(福島医科大)
幹事 内田 修司(福島高専) 春木 満(日大工)
化学教育幹事 長谷部 亨(福島大理工)
会計監査 寺前 紀夫(東北大院理) 磯部 寛之(東北大院理)

(3) 関東支部

支部長 赤阪 健(筑波大先端学際領域研)
副支部長 米澤 宣行(東京農工大院工)
浦田 尚男(三菱ケミカルホールディングス)
幹事 赤羽 良一(群馬高専)
浅川 真澄(産総研)
伊勢村次秀(旭硝子) 井手本 康(東理大理工)
伊藤 繁和(東工大院理工) 蝦名不二夫(茨城高専)
海老根俊裕(DIC)
大塩 寛紀(筑波大院数理物質)
岡本専太郎(神奈川大工) 折山 剛(茨城大理)
片山 建二(中大理工) 加部 義夫(神奈川大理)
刈込 道德(宇都宮大工) 木口 学(東工大院理工)

忽那 周三 (産総研)
黒田 俊彦 (東レ) 毛塚 智子 (東海大工)
小松 高行 (長岡技科大工)
後藤 敬 (東工大院理工) 佐藤 智司 (千葉大院工)
清水 敏夫 (首都大院理工) 末永 聖武 (慶應大理工)
鈴木 章泰 (山梨大院医学工)
鈴木 亨 (三菱化学科学技術研究センター)
田口 光正 (日本原子力研究開発機構)
武井 孝 (首都大院都市環境)
竹内 正之 (物質・材料研)
田代健太郎 (物質・材料研)
但馬 敬介 (東大院工)
常田 聡 (早大院先端理工)
中西 英二 (味の素) 中西 暢 (信越化学)
中村 剛 (三菱ガス化学) 長尾 憲治 (明大理工)
幡野 健 (埼玉大院理工) 平野 勝巳 (日大理工)
廣瀬 卓司 (埼玉大院理工)
古川 一暁 (NTT 物性科学基礎研)
北條 博彦 (東大生産研) 細川 和生 (理研基幹研)
本田 清 (横国大院環境情報研)
前田 優 (東京学芸大教育)
増田 茂 (東大院総合文化研)
松尾 一郎 (群馬大院工) 松尾 豊 (東大院理)
宮前 博 (城西大理)
森 俊明 (東工大院生命理工)
山上 功 (昭和電工)
山崎 孝 (東京農工大院工)
山本 泰彦 (筑波大化) 湯川 靖彦 (新潟大理)
弓削 秀隆 (北里大理) 若林 淳 (出光興産)
渡邊総一郎 (東邦大理)
監査 西村 淳 (金沢工大) 黒田 一幸 (早大院応用化学)

(4) 東海支部

支部長 増田 秀樹 (名工大院工)
副支部長 西山 久雄 (名大院工) 竹市 力 (豊橋技科大)
庶務幹事 大谷 肇 (名工大院工)
会計幹事 青野 重利 (岡崎統合バイオ)
常任幹事 岩松 将一 (名大院環) 梅澤 直樹 (名市大院薬)
大井 貴史 (名大院工) 大槻 主税 (名大院工)
清野竜太郎 (信州大工) 頼頼 守 (岐阜大工)
柴田 哲男 (名工大院工) 鈴木 正浩 (信州大院総合)
多賀圭次郎 (名工大院工) 手嶋 紀雄 (愛知工大工)
西田 雅一 (産総研) 畠山 明良 (第一工業製薬)
平本 昌宏 (分子研) 平野 幸治 (名市工研)
堀内 孝 (三重大院工) 松下未知雄 (名大院理)
松田 厚範 (豊橋技科大) 森 嘉男 (東亞合成)
山中 正道 (静岡大理) 山本 智代 (鈴鹿高専)
幹事 稲井 嘉人 (名工大院工) 稲毛 正彦 (愛知教育大教)
井上 秀樹 (東レ・ファインケミカル)
太田 一徳 (産総研) 小田 晃規 (信州大理)
川崎 晋司 (名工大院工) 忍久保 洋 (名大院工)
中野 充 (豊田中研)
西川 俊夫 (名大院生命農) 饒村 修 (中部大工)
前田 康久 (静岡大工) 森永 正隆 (コスモ石油)
監査 稲垣 都士 (岐阜大工) 渡辺 芳人 (名大物質国際研)

(5) 近畿支部

支部長 原田 明 (阪大院理)
副支部長 田中 成佳 (花王) 杉山 弘 (京大院理)
次期支部長 茶谷 直人 (阪大院工)
監査 中川 佳樹 (カネカ) 中條 善樹 (京大院工)
幹事 伊藤 研策 (富山大院理工 (工学系))
鈴木 炎 (富山大院理工 (理学))

太田 明雄 (金沢大院自然 (工))
古舘 英樹 (金沢大院自然科学)
海老谷幸喜 (北陸先端大) 徳永 雄次 (福井大工)
片野 肇 (福井県立大生物資源)
木村 隆英 (滋賀医科大) 村田靖次郎 (京大化研)
森本 幸生 (京大原子炉) 長谷川博一 (京大院工)
寺尾 潤 (京大院工) 穴戸 哲也 (京大院工)
北川 文彦 (京大院工) 藤田 健一 (京大院人環)
板東 俊和 (京大院理) 木村 佳文 (京大院理)
今野 勉 (京都工織大) 金折 賢二 (京都工織大)
今西 哲士 (阪大院基礎工) 今田 泰嗣 (阪大院基礎工)
関 修平 (阪大院工) 林 高史 (阪大院工)
加藤 修雄 (阪大産研) 鷹野 優 (阪大蛋白研)
藤本ゆかり (阪大院理) 山口 和也 (阪大院理)
伊東 忍 (阪大院工) 久保整公二 (大阪教育大)
米谷 紀嗣 (阪市大院工) 坂口 和彦 (阪市大院理)
河野 健司 (阪府大院工) 松坂 裕之 (阪府大院理)
石田 謙司 (神戸大院工) 林 昌彦 (神戸大院理)
遊佐 真一 (兵庫県立大院工)
満身 稔 (兵庫県立大院物質理)
山邊 信一 (奈良教育大) 中島 隆行 (奈良女大理)
池田 篤志 (奈良先端大) 山口 真範 (和歌山大教育)
矢嶋 撰子 (和歌山大システム工)
稲田 康宏 (立命館大生命科学)
小寺 政人 (同志社大理工) 中村 吉伸 (大阪工業大)
西山 豊 (関西大化学生命工)
藤原 尚 (近畿大理工)
矢ヶ崎 篤 (関西学院大理工)
山本 雅博 (甲南大理工) 松井 栄樹 (福井高専)
大淵 真一 (神戸市立高専) 齋藤唯理重 (産総研)
山村 伸吾 (阪市工研) 櫻井 芳昭 (阪府産技総研)
山崎 有香 (三洋化成) 高山 正己 (塩野義製薬)
上川 徹 (住友化学) 大村 貴宏 (積水化学)
窪田 均 (田辺三菱製薬) 村井 良行 (ダイセル化学)
大井 悟 (武田薬品) 加地 篤 (東洋紡)
茂本 勇 (東レ) 中川 浩一 (日本触媒)
蔭山 秀樹 (日本合成化学) 鈴木 正明 (パナソニック)
松浦 陽 (三井化学)

近畿支部化学教育協議会議長 横井 邦彦 (大阪教育大教育)
化学への招待小委員長 成相 裕之 (神戸大院工)

(6) 中国四国支部

支部長 川口建太郎 (岡山大院自然科学)
副支部長 北山慎一郎 (住友化学) 久保 恭男 (島根大総理工)
支部監査 小倉 邦義 (三菱レイヨン)
田中 均 (徳島大院ソシオテクノ)
次年度支部長 藤原 照文 (広島大院理)
地区幹事 川面 基 (鳥取大院工) 半田 真 (島根大総理工)
菅 誠治 (岡山大院自然科学)
石田 祐之 (岡山大院自然科学)
木村 幸敬 (岡山大院環境)
横山 崇 (岡山理大理)
金平 浩一 (クラレ)
中村 宏文 (三菱化学)
松原 一博 (旭化成ケミカルズ)
赤松 久 (湧永製薬) 片元 勉 (戸田工業)
加門 良啓 (三菱レイヨン)
山本 和彦 (近畿大工) 山崎 勝義 (広島大院理)
中田 聡 (広島大院理) 川俣 純 (山口大院医)
山本喜久雄 (トクヤマ)
北條 信 (山口東京理科大学)
高橋 満 (東ソー)
堤 宏守 (山口大院医) 海磯 孝二 (宇部興産)

今井 昭二 (徳島大院ソシオ・アーツ)
 魚崎 泰弘 (徳島大院ソシオテクノ)
 城井 敬史 (大塚化学)
 武田 清 (鳴教大院学校教育)
 石井 知彦 (香川大工) 塚本 郁子 (香川大医)
 北村 勝 (住友化学)
 斎藤 安彦 (帝人ファイバー)
 佐藤 久子 (愛媛大院理工)
 井原 栄治 (愛媛大院理工)
 米村 俊昭 (高知大理)

支部化学教育協議会委員長 三好 徳和 (徳島大院ソシオアーツ)
 次年度支部化学教育協議会委員長 高木由美子 (香川大教育)
 事務局長 佐野 庸治 (広島大院工)
 会計幹事 中島 覚 (広島大自然科学研究支援)
 庶務幹事 吉田 拓人 (広島大院工) 楯 真一 (広島大院理)
 高口 博志 (広島大院理)

(7) 九州支部

支部長 寺岡 靖剛 (九大院総理工)
 副支部長 亀井 啓次 (旭化成)
 次期支部長 松本 泰道 (熊大院自然)
 庶務幹事 (会員担当幹事) 新留 康郎 (九大院工)
 会計幹事 宇都宮 聡 (九大院理)
 教育幹事 前田 環 (鹿大院理工) 今任 稔彦 (九大院工)

幹事 山田 勝弘 (新日鐵化学) 寺崎 渉 (三菱化学)
 吉野 信行 (電気化学工業) 溝上 健二 (三井化学)
 高野 尚之 (住友化学)
 佐伯 大 (日本合成化学工業)
 佐々木俊樹 (チッソ)
 柳沼 義仁 (旭化成ケミカルズ)
 山下 晃弘 (三菱重工業) 清賀 和法 (小倉合成工業)
 辻 勝行 (昭和電工) 内田 佳孝 (九電)
 荒木 孝司 (九工大院工) 長澤五十六 (福教大)
 仁部 芳則 (福大理) 中畠 裕之 (久留米高専)
 木幡 進 (熊本高専) 野間 弘昭 (産総研)
 竹下 道範 (佐賀大理工) 山田 耕史 (長大院医歯薬)
 津村 朋樹 (大分大工) 國武 雅司 (熊大院自然)
 戸田 敬 (熊大院自然) 西田 正志 (崇城大工)
 松下 洋一 (宮大工) 西元 研了 (鹿児島工技セ)
 錦織 寿 (鹿大教育) 堀内 敬三 (琉球大理)
 高杉美佳子 (九産大工)
 一二三恵美 (大分大先端医工研セ)
 青木百合子 (九大院総理工)
 監査 吉村 和久 (九大院理) 河野 巧 (新日鐵化学)
 本部理事 稲永 純二 (九大先導研)
 環境安全推進委員 坪田 敏樹 (九工大工)
 中島 謙一 (佐賀大理工) 石橋 康弘 (長崎総合科学大)

XI. 平成 21 年度部会事業

(1) コロナIDおよび界面化学部会

事業名	回数	講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会	3					
事業企画委員会	4					
編集委員会	2					
基礎講座	1	14				50
フォーラム	1	5				29
新領域創造講座	1	7				34
技術シンポジウム	1	13				124
討論会	1	378			200	561

(2) 情報化学部会

事業名	回数	講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
総会	1					
役員会	2					
拡大編集委員会	1					
CICSJ Bulletin 発行	5					
電子ジャーナル (J.Comp.Aided.Chem) 刊行	随時					
JCAC 論文賞 表彰	1					
第 32 回情報化学討論会	1	31			20	70
同 討論会要旨集電子化	1					
講習会「第 8 回情報化学入門講座」	1	1				4

(3) 生体機能関連化学部会

事業名	回数	講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会	2					
生体機能関連化学シンポジウム	1	307			132	415
ニュースレター	4					

(4) バイオテクノロジー部会

事業名	回数	講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会	2					
バイオテクノロジーシンポジウム	1	307			132	415
ニュースレター	1					

(5) 有機結晶部会

事業名	回数	講演件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会	2					
有機結晶シンポジウム	1	78			70	139
ニュースレター	2					

XII. 平成 22 年度部会役員

(1) コロイドおよび界面化学部会
部会長 栗原 和枝 (東北大多元研)
幹事 若干名

(2) 情報化学部会
部会長 船津 公人 (東大院工)
幹事 若干名

(3) 生体機能関連化学部会
部会長 渡辺 芳人 (名大院理)
幹事 若干名

(4) バイオテクノロジー部会
部会長 中村 聡 (東工大院生命)
幹事 若干名

(5) 有機結晶部会
部会長 佐藤 直樹 (京大化研)
幹事 若干名